

## 関係代名詞の指導

原田尚孝

(熊本県熊本市立京陵中学校)

## 1. はじめに

平成20年3月に公示された新『学習指導要領』には、文法とコミュニケーションの関係について、「文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導すること」という記述がある。本稿では、「習得」、「定着」、「活用」の流れを意識した関係代名詞の指導実践を紹介し、言語活動と関連付けた文法指導を考えていきたい。

## 2. 習得 (導入)

関係代名詞の導入については、生徒が後置修飾という構造を理解しやすいように以下の2つの方法を併用している。

## (1) 既習文と比較する

既習文の2つをつなぐことにより、関係代名詞が接続詞と代名詞の働きをすることを理解させる。

I have a friend. And he lives in Australia.

I have a friend who lives in Australia.

## (2) 気づきを与える

先行詞のあとに関係代名詞を用いて情報をつけ加えていく形を、生徒に数例提示する。そして、(名詞)句としてひとつのまとまりになっていることに気づかせる。

the book

the book which Tom read last night

次に、それが文の中で補語や目的語、そして主語などの役割を果たすことを理解させる。

This is the book which Tom read last night.

(補語)

I know the book which Tom read last night.

(目的語)

The book which I read last night is interesting. (主語)

## 3. 定着 (Practice)

定着については、既習語や生徒に興味のある単語を使ったり、活動にゲーム的要素を取り入れたりするなど、生徒の意欲を保つ工夫が必要である。

## (1) Pair Work

関係代名詞は単語の定義によく用いられる。そこで、Information Gap Activity のペア活動を通して、関係代名詞 that (主格) の定着を図る。

## STUDENT A

1.calendar 2.rain 3.dictionary 4.ferry

## STUDENT B

A water that comes from the sky

I a book that tells you the meanings of word

ウ a boat that takes people across the sea or river

エ a piece of paper that shows us the days, weeks, and months of the year

この活動においては、Information Gap を作り出すことで、ペアで協力し、よりコミュニケーションに文法事項の定着が図られる。

## (2) 「クイズ」発表

ここでは、生徒が実際に自分で関係代名詞を含んだ英文を作り、クイズ形式で活動させることにより、更なる定着を図る。手順は以下の通りである。

- ① 自分たちで作った関係代名詞を含むクイズをグループ内で確認しあい、必要があれば修正する。

- ② 各グループで問題の配列(易から難)を考える。
- ③ 各グループで、全体発表のための準備(司会、質問者等の役割分担決定)をする。
- ④ くじで発表班を決め、みんなの前で質問する。他の生徒はよく聞いて答えを考え、シートに記入する。その後、答え合わせを行う。

以下に生徒の作品例を示す。( )内は正解例

【人+主格(who)】

- ・ a person who teaches English to us (Mr Harada)
- ・ a person who built Tosyodaiji Temple (Ganjin)
- ・ a man who walked by himself to make a Japanese map (Ino Tadataka)
- ・ a beautiful woman who ate a poisoned apple (Snow White)

【物+主格(which)】

- ・ something which is in our body and always beating for us to live (heart)
- ・ something which is opened by people when it's raining (umbrella)
- ・ a kind of book which has many pictures of your memories (album)

【物+目的格(that)】

- ・ yellow foods that you can buy at a fruit shop (lemon, banana)
- ・ 52 small sheets of paper that you can use to play many games (cards)

#### 4. 活用(発展)

関係代名詞の発展的な活動としては、生徒全員に Show and Tell を行わせることにした。その中で、次の3点に留意しながら指導を行った。

- ① 初歩的な英語を用いて活動するにしても、発表内容は生徒の知的レベルや好奇心に応じたものにする。これにより聞き手も興味を持って発表を聞くことができる。
- ② 発表原稿には、関係代名詞を含む文(This is ... who / which / that ~.) を必ず1文以上入れる。これは、物を見せながら説明するときの手助けとなる。
- ③ 今回の活動のねらいは Show and Tell の発表はもちろんのこと、発表後の QA 活動にもある。聞き手は、発表内容を聞いて、質問を考えなければならないし、発表者もその場で質問に答えなければならない。まさに今まで学習した知識

を総動員して行うコミュニケーション活動であると言える。

【Show & Tell (My Memory) の例】

- ・ 見せるもの：寄せ書き
- ・ 伝えたいこと：部活の思い出

Hello, everyone! Today I'm going to talk about my memory. This is a picture which I got from the second year students of the volleyball club. It looks like only a picture, but it is a yosegaki and also it is a jigsaw puzzle. There are wonderful words on the picture. I think about how happy I was in the volleyball club. It is a treasure that is full of my memories. Thank you for listening.

【QA 活動の例】

司会：Do you have any questions?

S1：Do you like volleyball?

発表者：Yes, I do.

S2：Will you play volleyball in high school?

発表者：Maybe, yes.

S3：Why do you play volleyball?

発表者：Because volleyball is a lot of fun.

司会：Thank you very much.

#### 5 まとめ

『学習指導要領解説』の中には、「文法事項を指導する際には、その意味や機能を十分に理解させた上で、それまでに学んだ語彙や文法事項と関連を図り、言語活動の中で自分の考えや気持ち、事実などを伝え合うことに生かすことが大切である」とある。

関係代名詞を単なる文法事項としてではなく、コミュニケーションを支えるものとしてとらえ、指導場面の工夫を行い、生徒の自己表現能力を伸ばしていくことはとても大切である。そこには「楽しく力をつける」というねらいもある。今後もコミュニケーションを支える文法指導の在り方を模索していきたい。

【参考文献】

英語教科研究会(編)『スーパー・ペアワーク3年』正進社